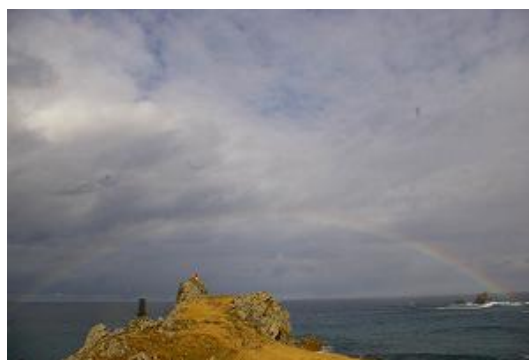


津軽の砂鉄

2007年11月16日 所用でむつ市を訪問し、そのとき友人のI氏に依頼してあった津軽の砂鉄を頂きました。翌日、砂鉄を採取して頂いた場所への案内を請いました。下北半島北東、先端部の尻屋崎灯台があります。津軽海峡の東端、太平洋と交わるこの地は海難の頻発する航海の難所。灯台の左に、黒御影石を使った第二進徳丸殉難者の碑が立っています。石の地蔵さんには赤い服が着せら

れています。冷たい雨の後、太陽が雲間からのぞくと地蔵さんと石碑をまたぐ綺麗な虹が見えてきました。ここに、転がっていた石は磁石にくっつきます、この石が津軽の砂鉄の元になっているのでしょうか。しっかりとした花崗岩ではなく、小さなもろい火山弾のようです。

砂鉄を採取して頂いた海岸は、ここから10kmほど南西に進み、むつ市へもどる道沿いの海岸



でした。青森県下北郡東通村、たぶんこんな地名だったと思います。小さな漁村の集落を越えたところに車を止め、林をぬけて海岸へ出ました。北に、津軽海峡をはさみ北海道の渡島半島が見えます。少し高い山は恵山、左の端が函館と説明をうけました。この海岸には黒い部分が多くあります。1mほどの海岸の段丘は黒い色の厚層と少しの茶色い砂の層がありますが、黒色はすべて砂鉄です。一部を手で掘り、準備したナイロン袋に入れて持ち帰りました。きめの細かい黒い砂鉄です。



恐山（おそれざん、おそれやま） 出典 ウィキペディア

恐山は、下北半島の中央部に位置する外輪山、霊場であり、高野山、比叡山と並ぶ日本三大霊場の一つである。

恐山は、カルデラ湖である宇曽利湖（うそりこ）を中心とした外輪山の総称である。外輪山は釜臥山、大尽山、小尽山、北国山、屏風山、剣の山、地藏山、鶏頭山の八峰。「恐山」という名称の単独峰はない。火山岩に覆われた「地獄」と呼ばれる風景と、美しい宇曽利湖の「極楽浜」との対比が特徴である。

寺名は恐山菩提寺、本坊はむつ市田名部にある曹洞宗円通寺である。本尊は延命地藏菩薩。開山は慈覚大師円仁による。